

労働政策フォーラム

高校中退者の中退後支援の課題
ーライフコース形成空間に着目してー

宮崎隆志

北海道大学大学院教育学研究院

1. 課題と方法

- 中退者支援の必要性や課題の確認
→ ライフコース検証が必要、縦断データなし
内閣府調査、北大調査(宮崎、横井)から
- ライフコース形成空間の特徴 → 支援課題へ
- 早期離学問題(ESL)は、乳幼児期からの包括的・予防的視点を必須とするが、今回はその端緒としての中退後支援課題に限定

2. 高校中退者の現状

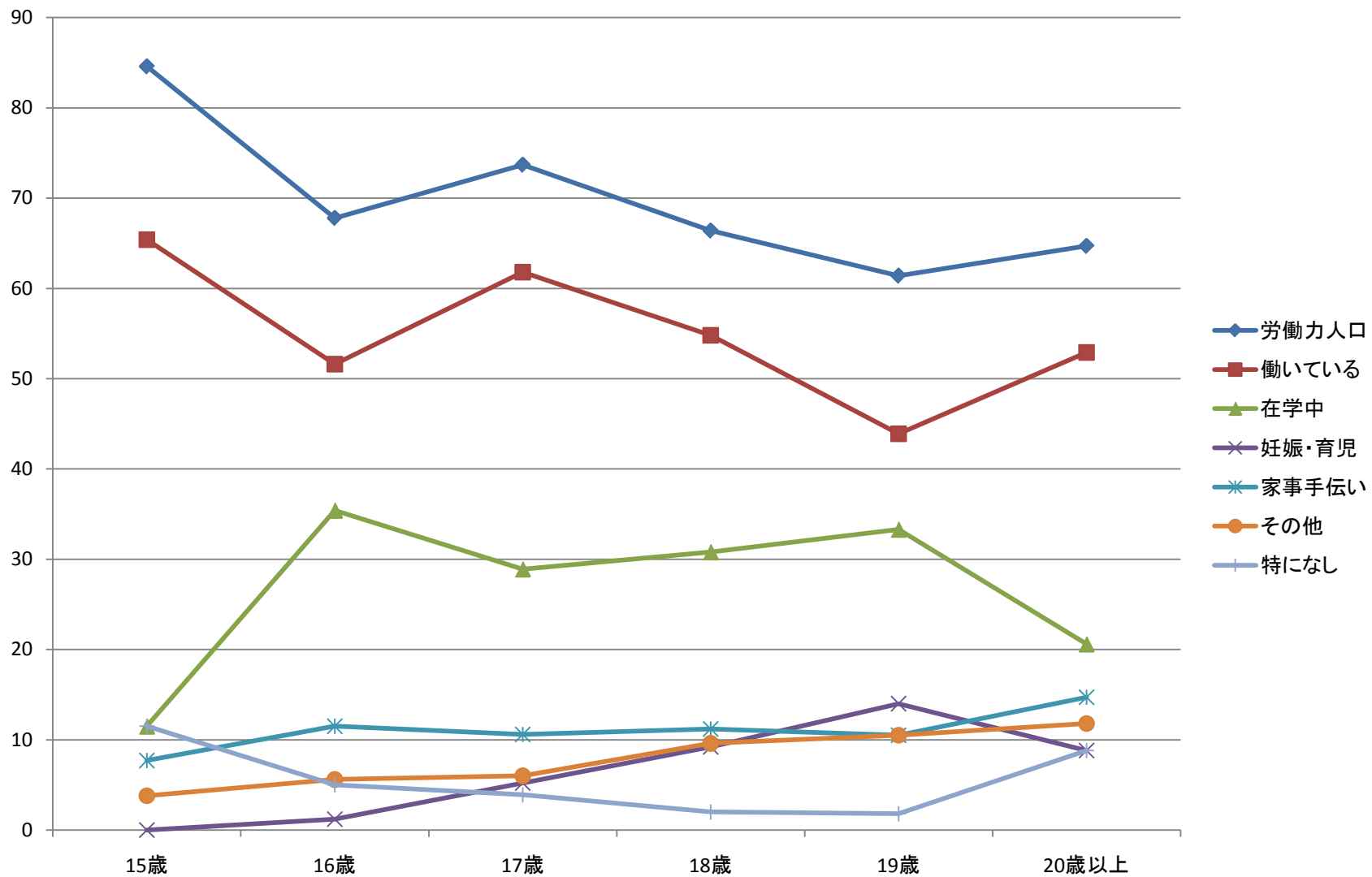
2-1中退後の状態(F1)

- ・在学は3割、半数以上は就労(労働力人口化は2/3)
- ・年齢進行とともに労働力人口比率は低下、
求職者・妊娠育児・家事手伝い・その他が増加
- ・20代:就労者増加とともに家事手伝い・その他・何もしていないの微増

2-2進路分岐の特徴

- ・正社員:男性・17歳以上・工業科出身の18%が正社員
- ・フリーター:女性多い・17歳までに多い
- ・専門学校:在学者少ない(学費負担?)
- ・通信制高校:全日制・定時制よりも広範な年齢層が在学

F1 年齢別状態



3. 進路希望の規定要因

- 自由選択の結果としてのライフコース
← 高校中退者固有の制約の下での選択
= 制限された自由：自由の拡張が支援の課題

3-1 経済的・文化的規定性

- 3年後の進路希望（解説版図1）
大学・専門学校は親の経済・文化資本に比例
- 就労状況：経済資本大→正社員、小→フリーター
- 職業資格取得見込み（解説版図6）も経済階層が規定

3. 進路希望の規定要因

3-2 家族問題

- ・親の失業、病気・障害等

→進学・資格取得の断念

→窮迫的労働力販売(どこでもいい)

- ・中退の特定家族への集中傾向

兄弟姉妹も中退(不登校)

家族に起因する問題があるとなれば、それが社会的に見出されにくく再発している可能性

3. 進路希望の規定要因

3-3 学力

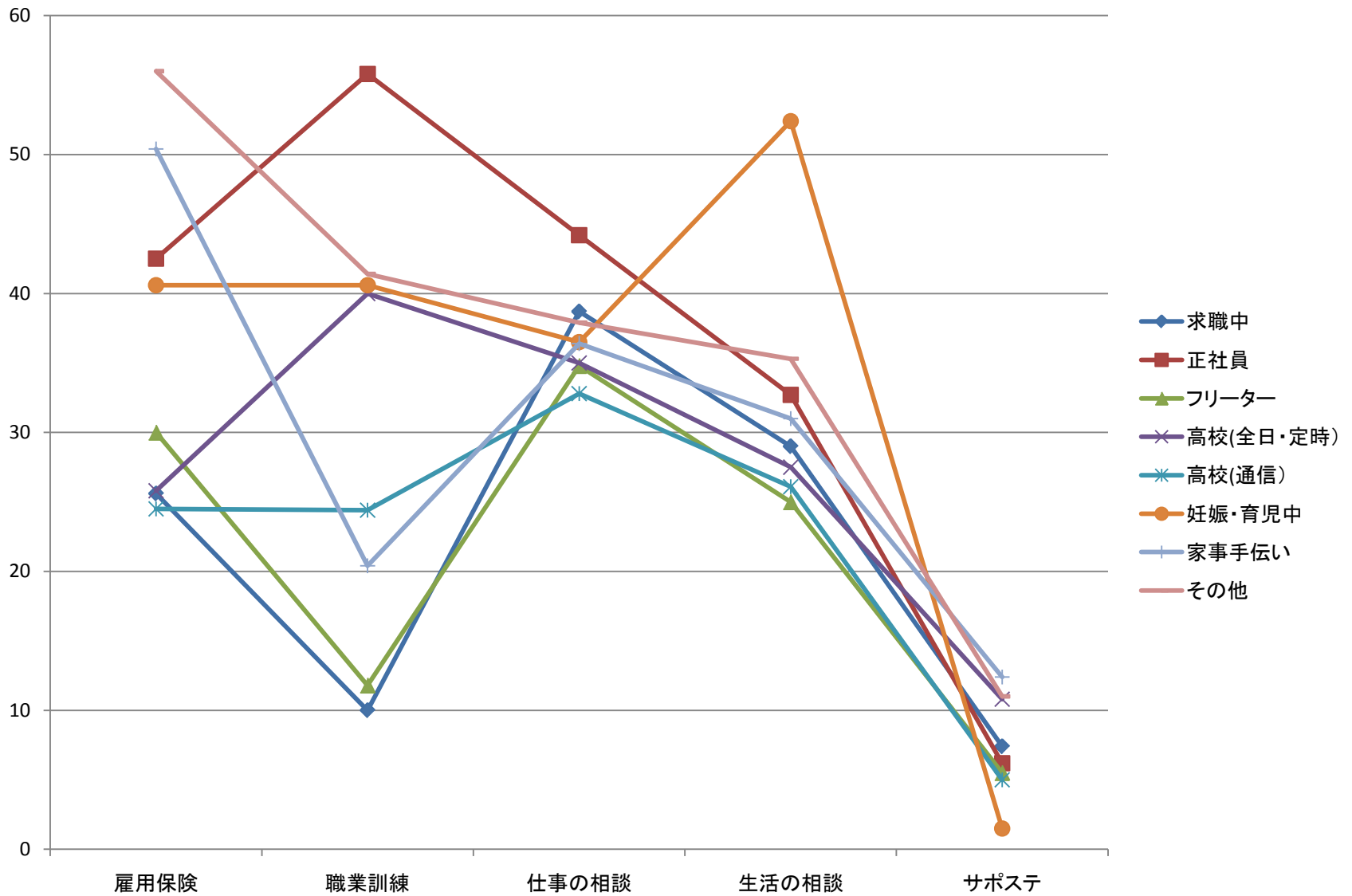
- ・「資格を取ることができないと思う理由」
 - 基礎学力不足(58%)
- ・中退理由
 - 「勉強がわからない」(48.7%)
 - 「欠席や欠時がたまって進級できそうもなかった」
(54.9%)
- ・学力不振は離学後も就職に際して依然として作用する

3. 進路希望の規定要因

3-4情報力

- ・社会サービス認知度の格差(F2)
(正社員大、フリーター・パート、求職者小)
- ・正社員職場・高校は情報蓄積の場(社会的陶冶)
フリーター・パート職場での陶冶の困難性
- ・妊娠・育児中:母子保健との公的接触
- ・サポステ:家事手伝い、全日定時制高校、その他では10%の認知、通信制・フリーター層での対応必要

F2社会サービスの認知度



3. 進路希望の規定要因

3-5仲間はずれにされた経験

・仲間はずれにされた経験→対人関係の困難(F3・4・5)



孤独感・立腹感(F6・7)

将来への不安感(F8)

・女性のほうが他者関係・自己肯定感形成の困難度は高い(F9)

3-6労働市場のジェンダーバイアス(F10)

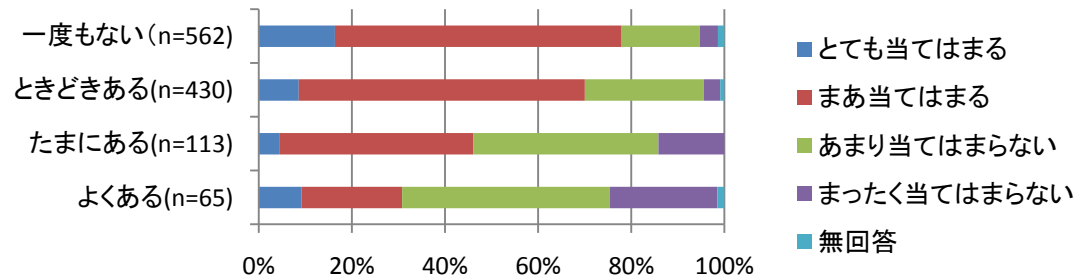
・正社員、家の商売:低孤独感→男性中心

・アルバイト、家事手伝い:高孤独感→女性に多い

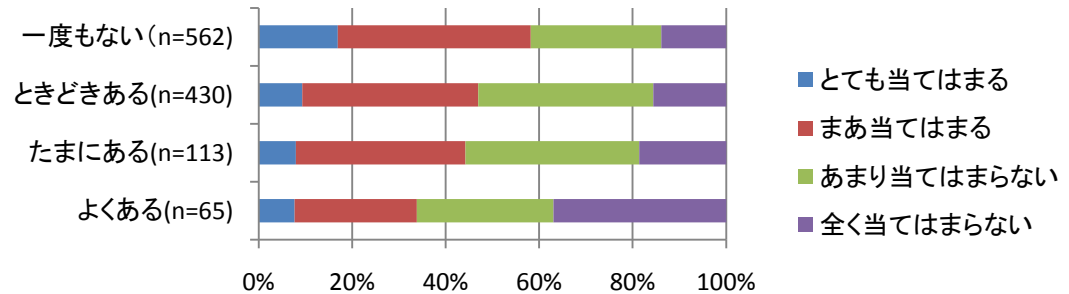
職場を通じた人間関係の安定化が期待しづらい労働市場しか女性には開かれていない

F3・4・5仲間はずれにされた経験

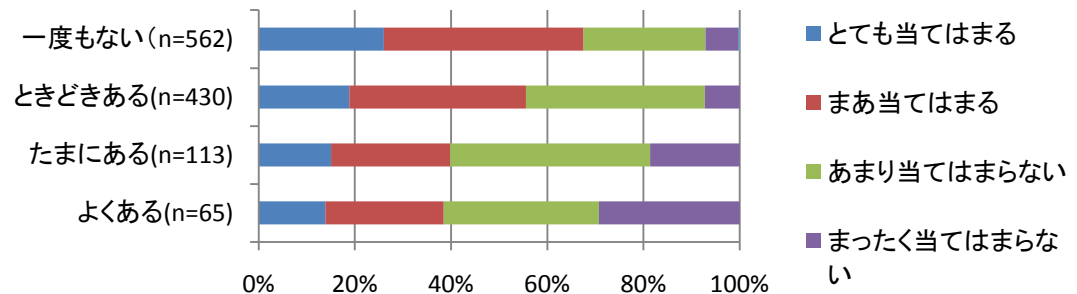
F3仲間からの信頼



F4嫌い・苦手な人 ともつきあえる

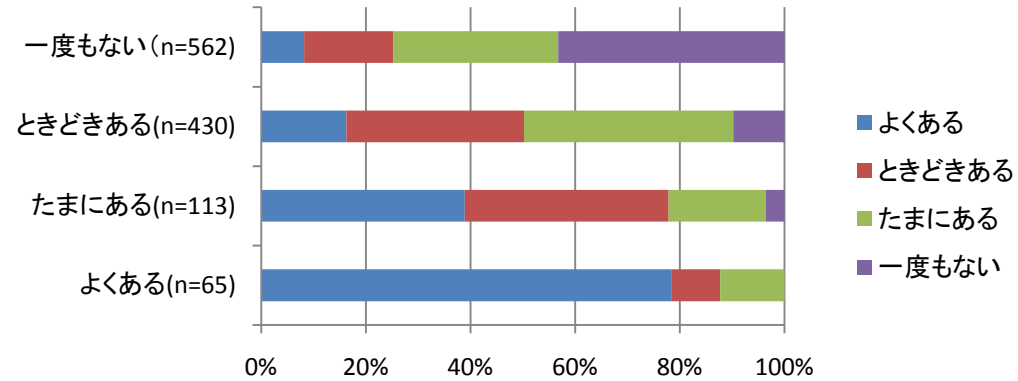


F5自分の考えを 相手に伝えられる

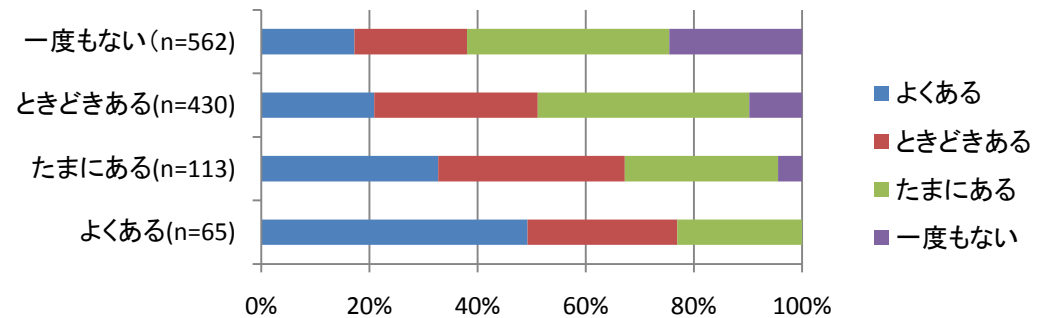


F6・7仲間はずれにされた経験

F6孤独感

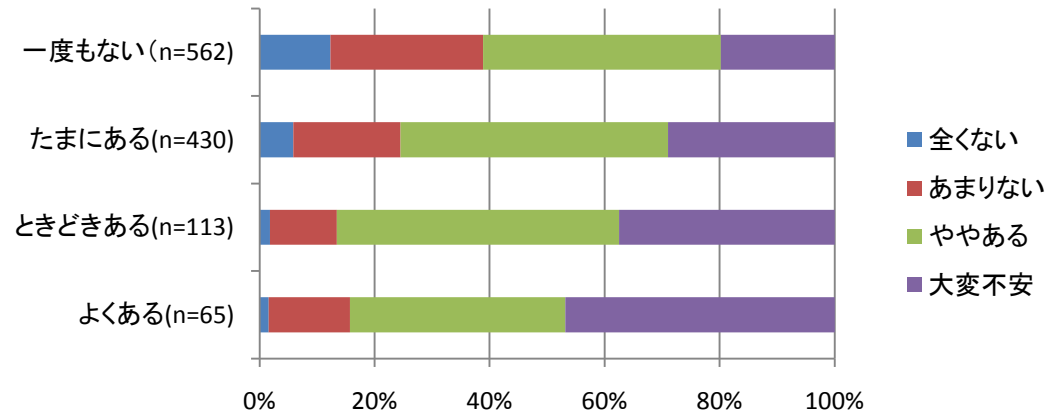


F7立腹感

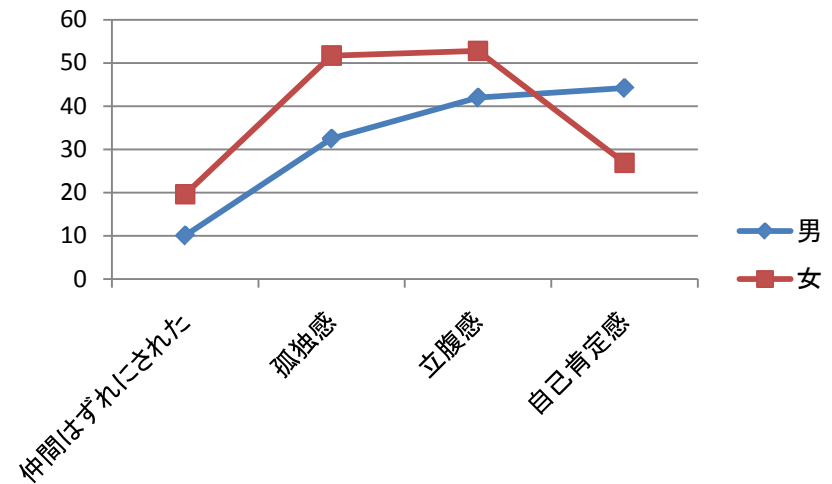


F8・9仲間はずれと将来不安、男女差

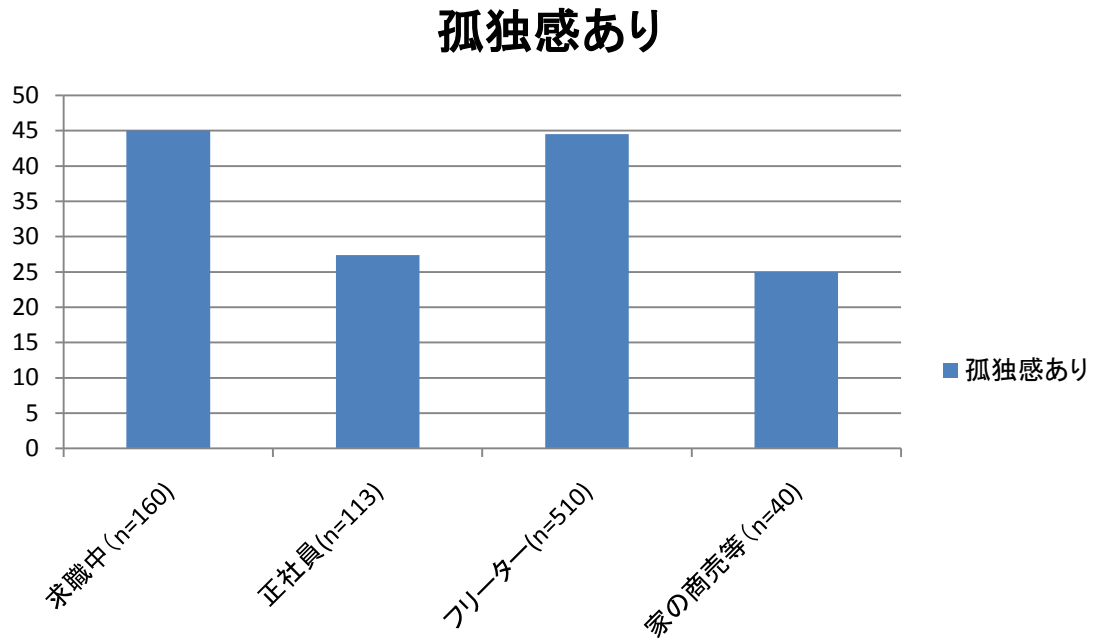
F8仲間はずれと将来不安



F9他者関係・自己肯定感



・F10 就業先別孤独感



- ・男女比：休職中 (46.9:53.1) 正社員 (81.4:18.6)
- フリーター (39.0:60.8) 家商売 (77.5:22.5)

3. 進路希望の規定要因

3-7労働市場の地域的限定性

- ・距離的制約：自転車等により通える範囲

↓ (離家の困難：低賃金・高家賃)

雑業的業務のスポット的労働市場

掲示板広告や親戚・友人等の紹介

- ・年齢的制約：高卒・免許不要

高校生アルバイト労働市場での差別化

- ・都市部とそれ以外の格差、ネットワークの格差

3-8保育対応

- ・10代の親：就労と子育ての両立の困難さ

4. ライフコース形成空間と当事者の意識

4-1 ライフコース形成空間

- ・狭隘性、時間軸の制限(希望の要素の限定)

- ・二つの層: 家族+仲間

客観的な規定性はこの層を經由: 緩衝・支援機能

この層自体が問題の原因化

- ・学校の保護機能(竹内常一)と代替可能性

学力・仲間・希望の形成: 客観的規定性の相対化

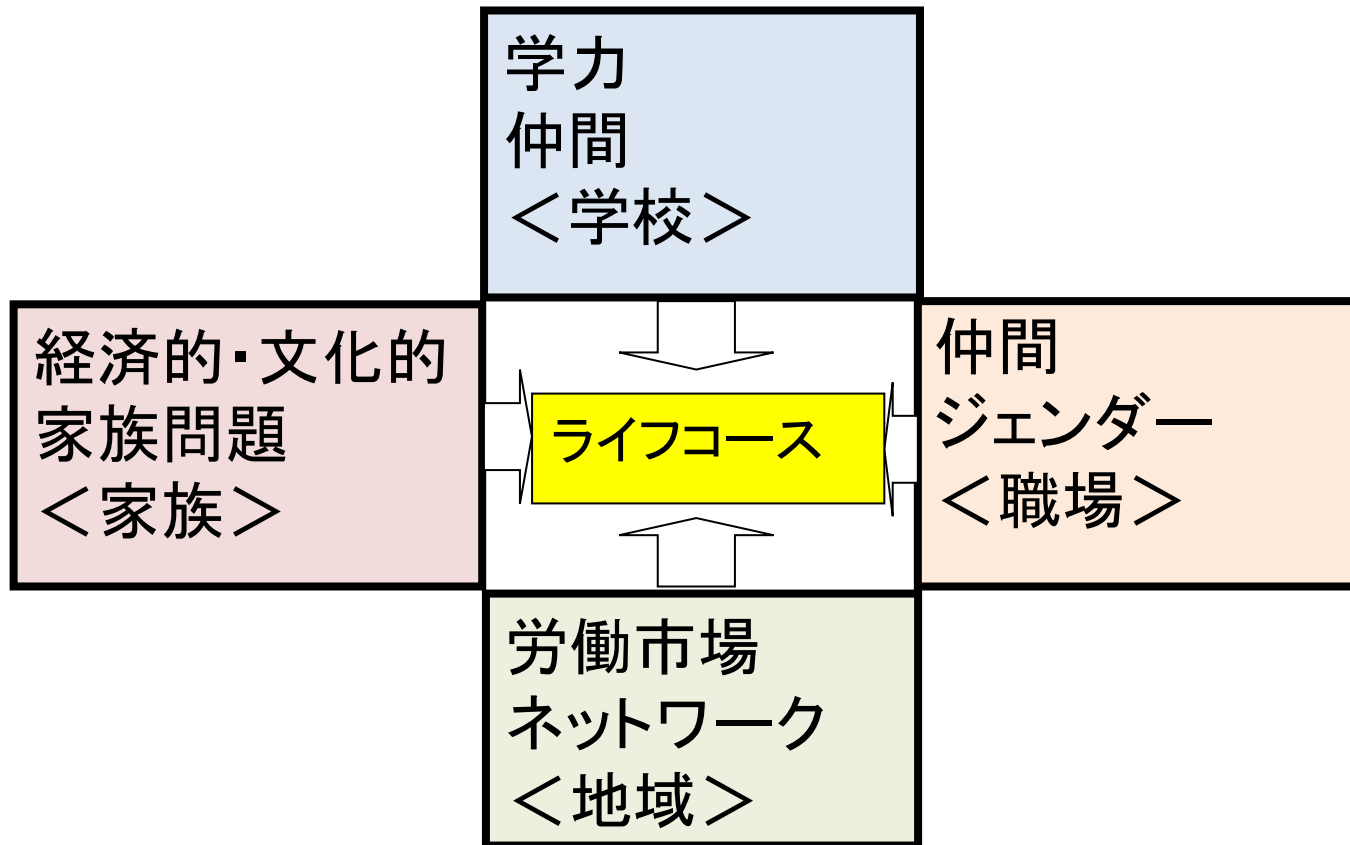
中退による当該機能の喪失と代替の困難性

: 仲間はずれの経験と不安の相関

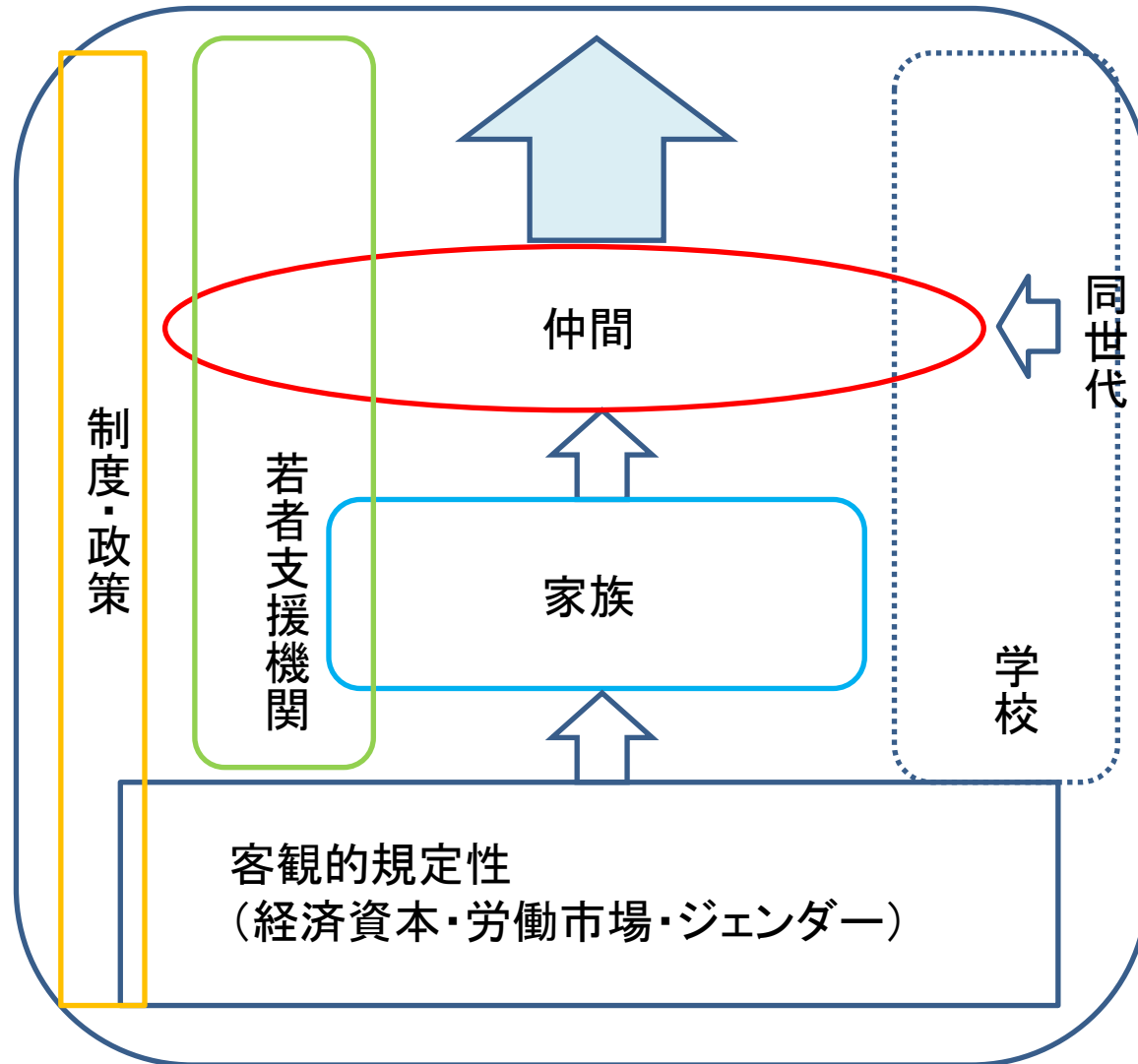
: 不安と支援ニーズとの相関(解説版)

ライフコース形成機能の十全化要求

ライフコース形成空間



ライフコース形成空間の構造



4. ライフコース形成空間と当事者の意識

4-2意識変化の過程

- ・中退直後の解放感：不安感の相対的低さ
：接触の困難性
- ・18歳の節目：同世代の社会経験に規定された規範
それに起因する焦りや不安
- ・自己認識の男女差：自己肯定感・他者関係
- ・ライフコース形成空間の作用における
タイムラグ、在学者の間接的影響、ジェンダー

5. 中退後支援の課題

5-1 支援の諸要素

- ・少年院：基礎学力形成、職業訓練、自己肯定感向上
家族支援、情報格差是正
- ・若者サポートステーション
 - ：課題意識は共通
 - ：生活圏域に密着した支援(ex.児童館利用)
- ・通信制高校の意義
- ・ライフコース形成空間の拡充としての支援
試行錯誤の可能性(樋口・宮本)＝当該空間の拡充

5. 中退後支援の課題

5-2 今後の課題

- ・経済的な規定性のキャンセル
18歳までの学習権保障(教育・訓練を受ける権利)
交通費程度の手当ても
- ・18歳未満層への早期対応
学校と若者支援組織との連携
- ・家族支援
地域に基盤をおいたソーシャルワーク
- ・ライフコース形成空間の柔らかさ
支援実践の省察に基づく有限性の意識化
支援資源の拡充(教育・労働)